

# 船舶事故調査報告書

平成28年3月24日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成27年7月12日 12時37分ごろ
発生場所	愛媛県松山市津和地島東方沖 津和地港南防波堤灯台から真方位190° 1,270m付近 (概位 北緯33°58.3′ 東経132°30.9′)
事故の概要	プレジャーボート琉悠丸は、北東進中、また、プレジャーボートスターダストVは、漂流中、両船が衝突した。 琉悠丸は、左舷船首部に擦過傷を、また、スターダストVは、右舷側の防舷材に亀裂を生じた。
事故調査の経過	平成27年7月12日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 琉悠丸、3.5トン HS3-43088（漁船登録番号）、個人所有 第270-46566号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート スターダストV、5トン未満（長さ7.14m） 270-35566広島、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 左舷船首部に擦過傷 B 右舷側の防舷材に亀裂
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風力 2、視界 良好 海象：波高 約1m、潮汐 ほぼ低潮時
事故の経過	船長Aは、約16ノットの対地速力で北東進中、左舷前方約900mの所に視認したB船とB船の東方300m付近で漂流中の漁船（以下「C船」という。）との間を通過することとし、C船に注意を向けながら手動操舵で航行していたところ、左舷船首の死角から出てきたB船の船体を至近に認め、右舵一杯とした。 船長Aは、同乗していた家族及び知人10人が船尾側に片寄って乗船していたので船首が浮上し、船首方に死角が生じている状況下、ふだんは操舵室の横の窓から顔を出して前方を見たり、レーダーを見たりしていたものの、本事故当時、レーダーをスタンバイ状態とし、操舵室の椅子に腰を掛けて目視で見張りをしていた。 船長Bは、船首からパラシュートアンカーを海中に投入し、北東に向首した状態で漂流中、右舷船尾に座り、下を向いて釣りの準備をし

	<p>ていたところ、同乗していた友人が船尾方約30mに接近したA船に気付いて船長Bに知らせたものの、どうすることもできなかった。</p>
分析	<p>A船は、船長Aが、C船に注意を向け、死角を補う見張りを適切に行っていなかったことから、漂泊中のB船に接近していることに気付かなかったものと考えられる。</p> <p>B船は、船長Bが、下を向いた姿勢で釣りの準備をしていて、見張りを行っていなかったことから、接近するB船に気付かずに漂泊を続けたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、A船の船長Aが死角を補う見張りを適切に行っておらず、また、B船の船長Bが見張りを行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常時適切な見張りを行うこと。</li> </ul>